

病 理 診 断 科

1. 目的と特徴

病理診断科は、疾病の原因と成立機序・その疾病の経過と転帰を探求する基礎医学としての病理学をもとにして、病理診断を行い、病院での診断業務を担っている。また最後の診断と言われる病理解剖を行う。病理診断業務に必要な知識と病理学的手法を所得し、それらを臨床医やメディカルスタッフと協力して診療に役立てることのできる病理診断医の養成を目指す。

東医療センターは中規模の総合病院であるが、病理診断科では年間6,000件余の組織診、350前後の術中迅速診断、3,000件前後の細胞診、20前後の剖検が行われ、ほとんどすべての種類の検体を取り扱われているという特徴がある。病理専門医を目指す者にとっては効率よく学べる。蛍光抗体法も行っている。当院および他院で開催される臓器別カンファレンスへの参加も積極的に行っている。

2. 指導スタッフ

教授・部長	増永敦子
教授（兼任）	長嶋洋治
講師	河村俊治
名誉教授	相羽元彦

当科は、大学全体の病理部門の1つとして、本院の病理学講座・病理診断科と密接な協力関係をもっており、教育・研究・診断業務において、これらの諸施設のスタッフの協力・指導を受けることができる。

3. 研修施設

基幹施設：東京女子医科大学東医療センター病理診断科

関連講座：東京女子医科大学病理学第一講座

東京女子医科大学病理学第二講座

連携施設：東京女子医科大学病理診断科

東京女子医科大学八千代医療センター病理診断科

独立行政法人労働者健康福祉機構 関東労災病院病理診断科

4. 研修カリキュラム

A：一般目標

医師としての豊かな人間性・幅広い見識・社会に貢献する使命感と責任感をもつ。病理診断の基盤となる病理学の基礎的な知識と、診断業務の遂行・研究に必要な方法論・技術を習得する。病理専門医として適切に病理診断業務を遂行し、研究・教育に応用できる能力をもつ。

希望者は後期臨床研修中に大学院への入学も可能である。

B：行動目標

日本病理学会の病理専門医研修カリキュラムの行動目標にのっとり研修を進める。

（病理専門医受験の際には研修手帳の提出が必要である）

C：年次別研修スケジュールと研修内容概略

研修1年次 病理解剖執刀と解剖報告書の作成、病理全般の基本的知識の習得、標本作製過程の理解、標本切り出しと病理診断。指導医とともに各カンファレンスに症例を呈示。

研修2年次 上記に加え、2年次終了時に剖検医資格を申請。

- 研修3年次 免疫組織化学・in situ hybridization・FISH・形態計測などの技能と知識を習得し応用する。
- 研修4年次 病理専門医試験を受ける。病理診断の経験を積み、学会発表を行い、発表内容を論文として投稿する。
- 研修5年次 研究テーマを決め、指導医のもと研究遂行の計画をたてる。

D：評価

- 病理指導医あるいはメディカルスタッフから逐次評価を受ける。
- 病理解剖報告書、病理診断レポートは症例ごとに指導医のチェックを受ける。
- 病理専門医資格、細胞診専門医の資格取得に際して、日本病理学会、日本臨床細胞学会から評価を受ける。

5. 後期臨床研修修了後の進路

後期臨床研修修了後、東京女子医科大学東医療センター病理診断科に就職を希望するものは、部長とスタッフの協議のもとに助教として採用も可能。その他の場合は進路について相談に応じる。

6. 学位

研究論文が掲載された後、病理診断科部長および病理学教授・講座主任との協議のもと、学位の申請をすることが可能である。臨床大学院入学者は4年間で研究を終え、論文を投稿し、学位を取得できる。

7. 専門医

病理解剖資格、病理専門医資格、細胞診専門医の資格の取得が可能である。

平成30年度（2018年度）からは日本専門医機構のもとで東京女子医科大学病理専門プログラムの連携施設（第1群）として専門教育を行う。

8. 問い合わせ

〒116 - 8567 東京都荒川区西尾久2 - 1 - 10

東京女子医科大学東医療センター病理診断科

教授 増永敦子

TEL：03 - 3810 - 1111（内線：7033、PHS：7705）

FAX：03 - 5692 - 1878